

科目名	教職入門		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」（2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、主に以下の3点である。 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。

教員の職務内容（サービス・研修など）について学ぶ。 教員採用のあり方などを知る。

3 学修目標

本科目の学修目標は、以下の3点である。 教職の制度的側面についての基礎知識を習得する。 教職にの意義と教員の役割について理解を深める。 教職への意欲を高める。

内容

- 第1回： 学校をめぐる、現代の諸問題
- 第2回： 現代社会の教育課題と学校（1） 義務教育課程における課題
- 第3回： 現代社会の教育課題と学校（2） 後期中等教育における課題
- 第4回： 専門職としての教師・その法的位置づけ
- 第5回： 教師像の歴史的变化
- 第6回： 教員生活の実際
- 第7回： 教師の職業的社会的化と研修の意義
- 第8回： 研修制度の実際
- 第9回： 学習指導要領の法的意義
- 第10回： 学校教育と法体系
- 第11回： 教員のサービス
- 第12回： 学校・家庭・地域社会の連携と教員の役割
- 第13回： 教員生活を振り返って・授業担当者による教員生活体験談
- 第14回： 学校教員の採用システムとその対応
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 テキストは、「図説・表解 教育法規」 坂田仰ほか著 教育開発研究所、を用いる予定である。変更の場合もあるので、初回の授業で指示する。

【参考図書】 参考書・参考資料等として、教育法規に関しては「学校小六法」が、採用情報に関しては都道府県教育委員会の広報が役立つ。

科目名	教職入門		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」（2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、主に以下の3点である。 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。

教員の職務内容（サービス・研修など）について学ぶ。 教員採用のあり方などを知る。

3 学修目標

本科目の学修目標は、以下の3点である。 教職の制度的側面についての基礎知識を習得する。 教職にの意義と教員の役割について理解を深める。 教職への意欲を高める。

内容

- 第1回： 学校をめぐる、現代の諸問題
- 第2回： 現代社会の教育課題と学校（1） 義務教育課程における課題
- 第3回： 現代社会の教育課題と学校（2） 後期中等教育における課題
- 第4回： 専門職としての教師・その法的位置づけ
- 第5回： 教師像の歴史的变化
- 第6回： 教員生活の実際
- 第7回： 教師の職業的社会的化と研修の意義
- 第8回： 研修制度の実際
- 第9回： 学習指導要領の法的意義
- 第10回： 学校教育と法体系
- 第11回： 教員のサービス
- 第12回： 学校・家庭・地域社会の連携と教員の役割
- 第13回： 教員生活を振り返って・授業担当者による教員生活体験談
- 第14回： 学校教員の採用システムとその対応
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 テキストは、「図説・表解 教育法規」 坂田仰ほか著 教育開発研究所、を用いる予定である。変更の場合もあるので、初回の授業で指示する。

【参考図書】 参考書・参考資料等として、教育法規に関しては「学校小六法」が、採用情報に関しては都道府県教育委員会の広報が役立つ。

科目名	教育学概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」（4単位中の2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、(1) 教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ、(2) 教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶことにある。

3 学修評価

本科目の学修目標は、以下の2点である。 教育の歴史的な展開と教育に関する様々な知識を理解し習得する。 教育について多角的視点から根源的に考えることのできるようになる。

内容

- 第1回： 教育の概念をめぐって
- 第2回： 社会生活と教育
- 第3回： 古代・中世の教育と近代学校の成立
- 第4回： 「子ども」を中心にとらえる教育観の成立
- 第5回： 20世紀の代表的教育思想
- 第6回： 日本の学校制度と教育体系の整備
- 第7回： 教育の社会的基盤
- 第8回： 現代日本の教育課題
- 第9回： 子どもと社会環境・特別支援教育
- 第10回： 「学ぶ力・考える力」 能動的な学習者を育てる
- 第11回： 教育評価の意義と方法
- 第12回： 学校経営と学校評価
- 第13回： 学級経営の基本
- 第14回： 教育行財政の基本 生涯学習時代の「教育と学習」
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。その比率は、小テスト50%：筆記試験50%で、合計60%以上の得点の場合を単位認定する。及第点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	教育学概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間生活学部教職科目 必修科目。

教職課程の基礎科目として各教科の基本となる教育の基本理念、教育の歴史や思想について学習する。また、今日の教育の動き、教育改革の進行など、現代社会の動きと日本、諸外国の状況など、教育現象を広くとらえ、人間形成のあり方にも触れる。

教育についての視野を広げ、自身の教育観の形成に役立てることを学修目標とする。

内容

1	現代教育の諸課題
2	教育とは - 教育へのさまざまな問い
3	教育と社会変容 - 教育の機能・役割
4	子どもの生活環境の変化
5	教育改革の動向
6	公教育の成り立ち
7	課題発表
8	教育制度と学校体系 - 諸外国と日本
9	学力について - 新学力観とPISA
10	子ども観の誕生 - ルソーにおける<子どもの発見>
11	近代学校の誕生 - 西洋と日本
12	学校観の移り変わり - デューイにみる学校と社会
13	現代にみる学校化社会と新たな学習への模索
14	課題発表
15	まとめ

評価

課題レポート60点、授業・グループワーク参加30点、発表10点の合計100点とし、60点以上が合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『やさしい教育原理』（有斐閣）

『学ぶこと・教えること』（金子出版）などが参考。

テキストは授業時に紹介する。

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

法と制度の観点から、学校教育を成り立たせている仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の教育及び学校における諸問題を考察する視点を得ることである。

科目の概要

学校教育を法と制度の観点から見ることは、実際の社会的現実の中で学校教育が果たしている役割に目を向けることになり、学校教育の役割が制度として理解できることである。

基本的な学校関係法規について扱う中で、わが国の学校教育についての理解を深めるとともに、近年の教育改革の動向についても考察する。

学修目標

教育の基礎理論に関する科目として、学校教育に関する基本的な法と制度を理解する。

内容

1	教育の目的及び理念等に関する法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する法規
3	教育行政機関の仕組み等に関する法規
4	学校の種類・設置等に関する法規
5	学校運営等に関する法規
6	学校教育の目的・目標等に関する法規
7	学級編制等に関する法規
8	学習指導要領等に関する法規
9	教育課程の編成等に関する法規
10	教科書（教科用図書）等の教材に関する法規
11	教職員の組織・職務等に関する法規
12	教職員の人事・サービス等の特例に関する法規
13	就学・入学等に関する法規
14	保健・安全・給食等に関する法規
15	まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）40点、などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『解説 教育六法』解説教育六法編集委員会 三省堂

『教育法規便覧』窪田真二・小川友次編 学陽書房

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/中学校教諭一種免許状(社会)/高等学校教諭一種免許状(公民)/高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状(福祉)/高等学校教諭一種免許状(家庭)/中学校教諭一種免許状(家庭)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	基礎栄養学		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修講義科目となります。より健康な心身を獲得するために必要な、栄養学の基礎を学んでいきます。

この講義ではまず、三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） 微量栄養素（ビタミン、ミネラル） その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解を導いていきます。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても説明を加えます。

学修目標は、食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解することができる 栄養素の摂取と消費のバランスが心身の健康・栄養状態に与える影響について健康教育できる基盤をつくる の3点とします。

内容

1	栄養と健康
2	栄養素の消化・吸収・代謝
3	糖質とは何か
4	糖質の機能と効率的な摂取法
5	タンパク質とは何か
6	タンパク質の機能と効率的な摂取法
7	脂質とは何か
8	脂質の機能と効率的な摂取法
9	ビタミンの必要性
10	ミネラルの必要性
11	水分・食物繊維の必要性
12	栄養素の摂取量と消費量のバランス
13	日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
14	幼児期・学童期・思春期の栄養学
15	まとめ

評価

学則にしたがって三分の二以上出席していることで評価を受けることができます。レポート30点、ミニテスト20点、ペーパー テスト50点とし、トータル60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田 勉 編 [わかりやすい栄養学] 三共出版

【推薦書】林寛 著 〔栄養学総論〕 三共出版

池本真二、稲山貴代 編著 〔食事と健康の科学〕 建帛社

科目名	解剖生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

解剖生理学では人体のしくみについて構造と機能という観点から理解することを目的とする。解剖学では人体の構造、生理学では機能を学ぶというおおまかな分類がある。しかし、両者は切り離して理解することはできない。本講義ではヒトが生きるための体の構造と機能そしてその関連に重点をおいて学ぶ。

内容

1. 人体の構造（組織、器官など）
2. 骨格系の構造と機能
3. 筋系の構造と機能
4. 筋系の構造と機能
5. 循環系の構造と機能
6. 循環系の構造と機能
7. 消化系の構造と機能
8. 消化系の構造と機能
9. 呼吸器系の構造と機能
10. 呼吸器系の構造と機能
11. 神経系の構造と機能
12. 神経系の構造と機能
13. 環境と人体の構造と機能
14. 環境と人体の構造と機能
15. まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再レポートを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	森 三樹雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

医学や医療に関する急速な進歩に伴い、医療を必要とする職種において、広範囲な医療知識と高度な専門技術が求められている。ここでは、解剖生理学という、人体の解剖学とその生理学的機能を学ぶことにより、医学の基本知識をみにつけることができる。この学問を基礎にして、生活習慣病を中心とした、糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症、痛風などの種々の病気についても解説する。これらの疾患を理解できるようになる。

内容

1	疾患による細胞、組織の変化	疾患の診断
2	疾患の治療	
3	臨床検査	
4	糖代謝とその異常	
5	脂質代謝とその異常	
6	蛋白質、核酸の代謝とその異常	
7	栄養障害 摂食障害	
8	消化管および肝、胆道, 膵臓疾患	
9	循環障害と循環器疾患	
10	腎・尿路疾患	
11	内分泌疾患	
12	骨代謝と筋・骨格疾患	呼吸器疾患
13	血駅疾患	
14	まとめ 1	
15	まとめ 2	

評価

ペーパーテストで60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】伊藤節子 編 『臨床病態学』 化学同人 2009
- 【推薦書】高野 康夫編 『解剖生理学』 化学同人 2004
- 【推薦書】森 三樹雄編 『やさしい臨床検査』 南山堂 2008

科目名	学校保健		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。学修目標として 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。 学校保健における基礎的事項について理解する。 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

1	学校保健の意義と関連法規について
2	子どもに多くみられる病気の理解について
3	学校における疾病管理の実際について
4	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理について
5	学校において予防すべき感染症について
6	学校における感染症の対応について
7	学校環境衛生の目的について
8	学校環境衛生の基準について
9	心身の健康課題への対応について
10	保健室経営について
11	保健室経営計画について
12	学校における保健組織活動の必要性について
13	学校安全計画と安全管理について
14	学校給食について
15	まとめ

評価

筆記試験(小テストを含む)9割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：養護教諭のための学校保健<第10版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	柳本 雄次、岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年	1,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥／多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房、石部元雄・柳本雄次編著『特別支援教育 理解と推進のために』福村出版、下司昌一編『現場で役立つ特別支援教育八

ンドブック』日本文化科学社

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	阿子島 茂美、榊原 洋一、岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

特別支援教育の中の知的障害の心理・生理・病理について基礎的な知識を学びます。講義では知的障害の発生要因・定義・分類・評価法・診断・病理等について事例を取り上げながら理解を深めます。学修目標は 知的障害の基礎を理解することができること 知的障害児の教育的ニーズと支援方法を理解することができることです。

内容

- 第1回：知的障害の医学的要因
- 第2回：知的障害の生理と病理
- 第3回：知的障害の精神と行動
- 第4回：知的障害の知的機能
- 第5回：知的障害の早期発見と療育
- 第6回：知的障害(肢体不自由・病弱)の定義・診断・分類
- 第7回：知的障害(肢体不自由・病弱)に関連する諸障害の特性
- 第8回：知的障害(肢体不自由・病弱)のアセスメント
- 第9回：知的障害(肢体不自由・病弱)の心理的特性
- 第10回：知的障害と認知特性
- 第11回：知的障害と記憶・学習
- 第12回：知的障害とソーシャルスキル
- 第13回：知的障害(肢体不自由・病弱)の療育
- 第14回：知的障害(肢体不自由・病弱)の学校における支援体制、関係諸機関との連携
- 第15回：知的障害(肢体不自由・病弱)における地域との連携

評価

試験による評価70% 中間レポートによる評価 20% 平常の参加度の評価 10%です。 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

下司昌一編集「現場で役立つ特別支援教育ハンドブック」日本文化社

小池敏英・北島善夫著「知的障害の心理学 発達支援からの理解」北大路書

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	柳本 雄次、榊原 洋一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

肢体不自由児はその起因疾患や病態、心理的な発達特性に関してきわめて多様で個人差がある。個に応じた指導を展開するには、肢体不自由児の障害や発達実態について医学、心理学等多角的な視点から把握する必要がある。

本授業では、肢体不自由教育に携わる際に必要となる基礎知識を習得することを目的として、肢体不自由児の起因疾患と病態、生育と発達特性の関連性、学習レディネスの形成過程について医学的、心理的及び社会的側面から講述し、教育実践上の問題を具体的に検討する。

学修目標は、 主要な肢体不自由の起因疾患と病態について理解すること、 肢体不自由児の認知特性、性格・行動特性について理解すること、 社会的視点から関係領域と連携した発達支援を理解することの3点である。

内容

1	運動機能の発達と運動障害の発生
2	肢体不自由の起因疾患と病態の特徴
3	脳性まひ等の脳障害にみられる随伴障害
4	肢体不自由者の生命・健康問題と医学的ケア
5	脳性まひの生活態様と二次的障害の防止
6	脳性まひ者の知的能力の特徴
7	肢体不自由者の学習困難とその治療教育的支援
8	肢体不自由者の知覚 - 運動の発達特性
9	運動機能障害を改善・克服する多様なアプローチ
10	肢体不自由者の生育過程とパーソナリティ形成
11	肢体不自由者の障害理解と受容過程
12	特別支援学校における自立活動中心の指導の実際
13	重度・重複障害(重症心身障害)者の心理と病理
14	肢体不自由者の家族の心理的問題と支援
15	QOLを高める医療・保健・福祉と連携した包括的支援

評価

学修目標に関するレポート(30点)、最終週の試験(50点)に通常を受講時の態度(20%を加味して、総合的に評価する。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で紹介する。毎回授業時に関係資料を配付する。

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	坂田 紀行、榊原 洋一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は教員免許（特別支援学校）資格取得のために必要な科目で、その中で病弱教育の基礎的理論を学ぶこととなります。

科目の概要

授業の前半は講義形式により、心理・生理・病理について理解を深め、自立活動への応用のあり方を学びます。後半は授業の流れによって見学（小児病院、特別支援学校（病弱）も組み込む予定です。

学修目標

- ・病弱者の認知、言語、社会性、知能などの一般的な特性について説明できる。
- ・知的障害、肢体不自由のある病弱者の心理的特性について説明できる。
- ・心理的特性を病弱教育の中の自立的活動への応用の視点を習得する

内容

2. 内容

回	内容
1回	病弱者の認知特性とその理解
2回	病弱者の言語発達特性とその理解
3回	病弱者の社会的・対人的発達とその理解
4回	知的障害、肢体不自由を併せ持つ病弱者の言語発達特性とその理解
5回	知的障害、肢体不自由を併せ持つ病弱者の認知特性とその理解
6回	知的障害、肢体不自由を併せ持つ病弱者の社会的・対人的発達とその理解
7回	病弱者の心理的面の指導
8回	病弱者の生理について：小児の発達
9回	病弱者の病理について：実態把握
10回	病弱者の病理について：評価、検査
11回	病弱者の病理について：薬物療法
12回	病弱者の自立活動への応用
13回	知的障害のある病弱者の自立活動への応用
14回	肢体不自由のある病弱者の自立的活動へ応用
15回	まとめ（試験を含む）

評価

3. 評価

学修目標に関するレポート（４０点）学修目標に関するペーパー - テスト（４０点）、通常の授業態度（２０点）により、評価を行い、７０点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

4 教科書・推薦書

推薦書

フィリア：特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

特別支援教育基礎論：大南英明、緒方明子、吉田昌義 放送大学教育振興会発行

参考書等 適宜、資料を配布します。また、視聴覚教材を取り入れます。